

令和6年度 江戸川区立上小岩第二小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	上二の子どもはやり通す ○やり通す心・・・よく学ぶ子（今年度重点）、思いやりのある子、よく働く子 ○やり通す体・・・よく遊ぶ子、よく運動する子	目指す学校像 ○安全・安心な学校、保護者・地域から信頼される学校 目指す児童像 ○明るく元気に学び合える児童 目指す教師像 ○教職員が協力し合い、互いに磨き合う教師
前年度までの本校の現状	成果 「確かな学力の向上」では、既習事項の確実な定着を行うことによって意識的な取組が少しずつ成果へと結びつき学力向上がみられる。地域資源を活かした教育では、総合的な学習の時間、生活科、理科等と関連付けて、地域への愛着形成を育むことができた。	課題 ・学習意欲や基礎学力の向上、体力向上に向けた運動量の確保 ・自ら進んで挨拶や返事をすることや学習習慣が身に付けられるように家庭と連携して取り組むとともに、学校から積極的に情報発信をしていくこと ・教室環境や児童とのかわり方についてさらなる改善を目指すために、研修会や校内支援委員会等を充実させること

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A~D)		「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」自己（学校）評価（A~D）		「年度末」学校関係者評価（A~D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○授業改善の推進、学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・学校と民間事業者による放課後補習教室の実施 ・教員の授業力向上	・放課後補習教室への登録率100% ・校内研修会1回と授業3回の実施。			B	・放課後学習教室参加児童を後期にも募集をする。 ・校内研究授業を1回実施した。	B	・放課後学習教室の参加率を上げる。とよい。					
	○読書科の更なる充実	・公共図書館巡回職員による探究学習の授業の実施	・学期に1回、全学年で実施			B	・高学年は、探究型学習をするにあたって、公共図書館巡回職員による本の紹介を実施した。	B	・図書館に行く機会があると良い。 ・読書する習慣を付ける。 ・高学年以外は2学期以降実施					
	○週1回の全校一斉朝学習の実施	・週1回の全校一斉朝学習の実施	・児童へのアンケート結果で、80%以上の児童が学力を高めようとしていると回答			A	・児童へのアンケート調査で93%の児童が学力を高めようとしていると回答している。	A	・学校授業の理解を深めるためにも朝学習時に復習テスト等をする。と効果的だと思う。					
体力の向上	○週に1回の全校一斉朝学習の実施	・中休みを30分間にして外遊びの充実	・児童へのアンケート結果で、日常的に運動している児童が20%以上増加			B	・アンケート結果から中休みや休み、放課後を通して日常的に運動している児童が84%である。引き続き、校庭遊びをするように声をかける。	B	・中休みが体力の向上に即効果があるとは思わないが、楽しく運動できるならば推進してもらいたい。 ・年度当初もアンケートする。					
	○縄跳び週間の設定	・100%の児童が縄跳び週間に参加	・100%の児童が縄跳び週間に参加			A	・1学期のなわ跳び週間では、全員が縄跳びに取り組む姿が見られた。	A	・基礎体力の向上に役立つ取組で大変良い。					
実現に向けた教育の推進	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた園に応じた指導の実施・充実	・巡回指導や特別支援教室専門員の活用、日本語指導員や日本語教室との連携	・毎月1回、通常学級担当教員と特別支援教育担当教員の打ち合わせを実施			A	・毎週1回、通常学級担当教員と特別支援教育担当教員の打ち合わせを実施している。	A	・今後も継続して実施してもらいたい。					
	○エンカレッジルームの有効活用	・エンカレッジルームの保護者への理解啓発	・年2回の保護者会や学校公開でエンカレッジルームを紹介			A	・1学期の学校公開（学校説明会）でエンカレッジルームの公開をして紹介できた。	A	・前回の学校公開時にエンカレッジルームを公開していたので、保護者の理解が深まると良い。					
	○副職交流	・学校だより等での交流実施	・毎月1回、学校だよりを校内に掲示			A	・毎月1回、学校だよりを校内に掲示できている。	A	・相互理解を進め、共生社会を形成するように継続するとよい。 ・学校だよりを教材にする。					
不登校・いじめ対応の充実	○豊かな心の育成	・委員会活動や係・当番活動、異学年交流などの充実	・児童へのアンケート結果で、80%以上が異学年交流に意欲的に取り組んでいると回答			A	・児童へのアンケート結果で、80%が異学年交流に意欲的に取り組んでいると回答している。	A	・学年の垣根を超えた大きな「仲間」として異議ある交流だと思ふ。					
	○Hyper-QUの活用	・Hyper-QUテストの児童の実態把握に基づいた指導の推進	・年に1回校内でQU研修会の実施や一人一人との個別面談			B	・学期末には児童一人一人に声をかけながら、成果をほめることができた。QUについては、実態把握をして今後活かす。	B	・一人一人の自己肯定感を高めてもらいたい。					
	○教育相談の強化	・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携強化	・不登校児童とのSC、SSW連携率100%			B	・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携を密にして、今後も100%連携できるようにする。	A	・今後も関係諸機関を連携を密にってもらいたい。					
学校（園）開かれた地域社会の実現	○学校（園）ホームページの充実等	・学校ホームページの更新	・毎日更新を実施			B	・給食のメニューだけでなく、できごとやお知らせも随時更新していく。	A	・学校ホームページの更新を楽しみにしている。 ・特定の教員が更新するのではなく、当番制にする。とよい。					
	○学校関係者評価の充実	・児童、保護者、地域、教職員へのアンケート調査の実施	・年間に1回以上実施			B	・児童へのアンケートは1学期実施、それ以外は2学期以降に実施する。	B	・実際に学校を見て学校について知っていきたい。					
教育の展開	○働き方改革の推進	・月2回の定時退勤日の設定	・全教職員の月残業時間4.5時間以下			B	・全教職員の月残業時間が減少傾向にあり、全教職員の月残業時間4.5時間以下達成の月があった。	B	・仕事内容と量が適正になり、過度な残業がなくなるとよい。 ・PTA本部への協力依頼もあってよい。					
	○教員研修の実施	・教員の組織的な育成	・年3回の授業観察や校内研究の分科会毎の授業を全教員が公開			A	・学期毎の授業観察や校内研究の授業等を全教員公開している。	A	・教職員の研修をし続けてもらいたい。					